

# 栃木県における外国人生徒の進路状況

## － 11 回目の調査結果報告 －

田 卷 松 雄

### はじめに

令和3年3月から4月にかけて、栃木県における外国人生徒の進路についての11回目の調査を行った。本稿の目的は、この進路調査の結果について基礎的な事実を整理することにある。また、同調査で実施した管理職へのアンケート結果を掲載した。

まず、文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査（平成30年度）の結果について」から、日本で学んでいる外国人児童生徒の全体的な状況について平成30年5月1日現在のデータを整理しておこう。

まず、全国の公立学校に在籍している外国人児童生徒数は93,133人で（平成28年度より13,014人増加）、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒数は40,485人（平成28年度の調査より6,150人増加）で、全体の43.5%を占める。日本語指導が必要な児童生徒の主要母語別状況は、ポルトガル語25.7%、中国語23.7%、フィリピン語19.5%、スペイン語9.4%となり、この4言語で全体の78.3%を占める。日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒は10,274人（平成28年度より662人増加）いる。日本語指導を必要とする児童生徒は全国で5万人を超えている。

平成30年5月1日現在、栃木県内の公立小中学校の外国人児童生徒のうち、日本語指導が必要な児童数は小学校554人、中学校129人、高等学校31人、特別支援学校2人で、合計は716人である。その主要母語別内訳は、スペイン語205人（28.6%）、ポルトガル語146人（20.4%）、フィリピン語136人（19.0%）、中国語51人（7.1%）、で、この言語で全体の75.1%を占める。スペイン語の割合が一番高く、ポルトガル語を合わせた南米系児童生徒の割合は49.0%となっている。

### I 調査の目的と方法

調査の目的は、栃木県における外国人生徒の進路状況の把握にある。調査対象は、栃木県のすべての公立中学校に在籍する令和2年度中学校第3学年在籍生徒のうち、①外国籍生徒および、②日本国籍で「日本語指導が必要な生徒」として把握されていた生徒とした。外国人生徒の担任あるいは3学年担当の先生に①か②のいずれかに該当する生徒の進路について回答してもらうという方法をとった。

調査票では、性別、国籍、母語、来日年齢、就学歴、進路希望、受検（験）方法、令和2年3月31日現在で確定している進路状況を聞いた。調査票は157校（分校及び県立は除いた）の県内全公立中学校に配布した。今回の調査で進路が把握できた生徒数は169人である。

### II 生徒の属性と進路結果の概要

#### 全体的な結果

169人の生徒の性別は、男性83人（49.1%）、女性84人（49.7%）、性別不明は2人であった。主な母語別状況では、スペイン語43人（25.4%）、日本語35人（20.7%）、ポルトガル語22人（13.0%）人、フィリピン語7人（4.1%）、中国語13人（7.7%）であった。主な国籍は、ペルー43人（25.4%）、フィリピン32人（18.9%）、ブラジル31人（18.3%）、中国15人（8.9%）であった。

169人のうち、中学3年時に日本語教育が必要な生徒は38人（22.5%）、必要としない生徒は122人（72.2%）、無回答は9人（5.3%）である。栃木県には、外国人児童生徒を支援する制度として、外国人児童生徒教育拠点校（通称拠点校）制度がある。日本語指導を必要とする外国人児童生徒が比較的多い（一般的に5人以上）学校は拠点校に指定され、外国人児童生徒のための教員が加配さ

れ、日本語教室が設置される。169 人のうち、拠点校在籍者は 47 人 (27.8%)、非拠点校在籍者は 99 人 (58.6%) で、無回答が 23 人 (13.6%) であった。

来日年齢別状況は、日本生まれを意味する 0 歳が 70 人 (41.4%)、1～5 歳 11 人 (6.5%)、6～9 歳 17 人 (10.1%)、10～12 歳 22 人 (13.0%)、13 歳以上 24 人 (14.2%)、無回答 25 人 (14.8%) であった。

進路希望については 169 人の中で進学希望者が 139 人 (82.2%) であった。今回、不明が 30 人 (17.8%) いた。進学希望者 139 人のうち、県内公立高校希望者は 90 人 (64.7%)、県内私立高校は 22 人 (15.8%) であった。

栃木県の公立高校入試では、一般選抜、特色選抜、「海外帰国者・外国人等のための特別措置」の 3 種類の選抜方法がある。公立高等学校全日制の入学者選抜においては、平成 26 年度より、従来の推薦入試が廃止となり、特色選抜による入試が実施されることになった。特色選抜では、中学校の推薦書が不要となり、受検者自らが「特色選抜志願理由書」を入学願書などとともに提出することになった。定時制課程のフレックス特別選抜は、平成 17 年度より県内 1 校で実施されている。学力検査は行わず、志願理由書（自己 PR 書）、調査書等の書類、面接及び作文の結果を総合的に判断して選抜する方法である。今回の調査でも、定時制課程の受検について、一般選抜とフレックス特色選抜に分けて聞いた。

表 1 は、進路結果を示している。高校進学者は 148 人で、解答者総数 169 人の 87.6% を占めた。公立特別支援学校進学者が 1 人、専修学校 6 人、専門学校進学者が 1 人、外国人学校進学者が 1 人いた。進学先別の進学者が全体の人数 169 人に占める割合は、公立全日制 91 人 (53.8%)、私立全日制 33 人 (19.5%)、公立定時制 13 人 (7.7%)、公立フレックス制 4 人 (2.4%)、公立通信制 3 人 (1.8%)、私立通信制 3 人 (1.8%)、国立 1 人 (0.6%) となっている。

進学以外では、未定 9 人 (5.3%)、帰国 1 人 (0.6%) となっている。

### 日本語指導の有無別進路結果

中学 3 年次に「日本語指導が必要」と判断されていた生徒（以下、「有」）は 38 人 (22.5%) で、

必要ないと判断されていた生徒（以下、「無」）は 122 人 (72.2%) であった。先にみたように、全国全体では、日本語指導が必要な外国人児童生徒の割合は 43.5% であるから、県内の割合は全国に比べて 20% ほど低い。

表 2 は、日本語指導の必要の有無別進路結果をしめしている。「有」38 人の主な進学先は、公立全日制が 11 人 (28.9%)、私立全日制 7 人 (18.4%)、公立定時制 8 人 (21.1%)、公立フレックス制 1 人 (2.6%) である。未定は 5 人 (13.2%) であった。「無」122 人の主な進路では、公立全日制 74 人 (60.7%) が最も多く、私立全日制 25 人 (20.5%)、公立定時制 4 人 (3.3%)、公立フレックス制 3 人 (2.5%) であった。未定は 4 人 (3.3%) である。「帰国・未定」の合計は、「有」6 人 (16.2%)、「無」4 人 (3.3%) で人数は「有」が 2 人多く、比率は「有」が約 5 倍高い結果となっている。無回答者 9 人の進路は、6 人 (66.7%) が公立全日制で、帰国はいなかった。

### 国籍別進路結果

表 3 は、国籍別の進路結果を示している。国籍は 17 に及ぶ。今回も、該当者が 1 人以上の場合でも国籍名を示した。該当者が 10 名以上の主な国籍別高校進学状況をみておくと、ペルー国籍の生徒は 43 人中、公立全日制 23 人 (53.5%)、私立全日制 11 人 (25.6%)、専修学校 3 人 (7.0%) であり、未定は 1 人 (2.3%)、帰国はいなかった。ブラジル国籍の生徒は 31 人中、公立全日制 21 人 (67.7%)、私立全日制 6 人 (19.4%) で、帰国と未定はいなかった。フィリピン国籍の生徒は 32 人中、公立全日制 21 人 (65.6%)、公立定時制 4 人 (12.5%)、私立全日制 2 人 (6.3%) で、未定 1 人 (3.1%) であった。中国国籍の生徒は 15 人中、公立全日制 7 人 (46.7%)、私立全日制 6 人 (40.0%) で、帰国と未定はいなかった。

### Ⅲ 特別措置利用状況

栃木県には、「海外帰国者・外国人等の受検に関する特別措置」がある。全国都道府県のなかには、外国人生徒の公立高校受検において特別枠や特別措置を用意しているところがある。

特別枠とは、特定の高校で一般の生徒とは別に外国人生徒のための定員を設けている場合あるい

は定員内の一定の人数や割合を外国人生徒のための枠として設けている場合を指す。

特別措置とは、一般入試の定員内ではあるが、科目の免除あるいは軽減、時間延長、漢字のルビうち等の配慮を行う措置を指す。

栃木県では特別枠を設けておらず、特別措置として、「A 海外特別選抜」（以下、A 選抜）と「B 海外特別措置」（以下、B 措置）が用意されている。A 選抜の場合、一般的には面接と調査書等で合否が判断されるが、高等学校長の判断で学力検査及び作文が課される場合がある。B 措置の場合は、学力検査と調査書等のほか作文及び面接が行われる。学力検査は一般入試の5教科に対して3教科（国・数・英）である。A 選抜不合格者は、A 選抜実施より後に行われる B 措置受検が可能である。外国人生徒の受検資格はどちらも「入国後3年以内」となっている（注1）。

今回の調査で日本の就学期間が3年以内と回答され、特別措置受検資格を有していたと理解される生徒は169人中24人（14.2%）であり、そのうちの9人（37.5%）が特別措置を使って受検した。受験者が回答者全体に占める割合は5.3%である。

特別措置受験資格は、「外国人等については入国後3年以内の場合は、その事情によっては、高等学校長の判断によって志願資格を認定することができる」（「栃木県立高等学校入学者選抜実施細則」14頁）とある通り、高等学校長の判断によるが、有資格者のうち受験者が4割に満たない事情の背景について検討が必要であろう。

9人のうち、日本語指導「有」6人、「無」2人、不明1人である。受検結果は、表4に示した。A 選抜を受検した4人のうち、3人（「有」1人と「無」2人）は公立全日制に合格した。「有」の1人は合格出来ず、未定の結果となった。B 措置を受検した3人（「有」2人、不明1人）は全員公立定時制に合格した。A 選抜と B 措置両方を受検した2人のうち1人は B 措置で公立定時制に進学した。もう1人は、B 措置で不合格になった後、一般受検で定時制に進学した。

なお、公立定時制への進学率（公立フレックス含む）は過去10回、14.9%、6.3%、12.2%、12.6%、19.8%、19.5%、17.5%、16.9%、7.3%、9.8%

と推移してきたが、今回は7.7%であった。特別措置受検による合格者が調査回答者に占める割合は過去10回6.4%、5.5%、5.7%、6.7%、3.4%、2.4%、5.6%、3.2%、4.6%、8.5%と推移してきたが、今回は5.3%であった。

#### Ⅳ 管理職アンケート結果

○「多言語による高校進学ガイダンス」の実施にふさわしい開催時期や開催場所についての意見（注2）

- ・この時期でも大きな問題はないが、多くの中学校で夏休み前半に三者懇談を行っているので、これも夏休み後半の開催を考えてもいいかもしれない。
- ・今のままで良い。
- ・今回のかたちがよいと思います
- ・今年度と同じ
- ・令和2年と同時期・場所でいいと思います。
- ・進学フェアと同日開催で大丈夫です。
- ・担任が行う三者面談を考え、夏休み（7月下旬～8月上旬）がよいと思います。
- ・夏休み前半と10～11月頃が良い。一日体験学習が始まる前と、受験校を決定する前にガイダンスがあると良い。地域の公民館などが良い。
- ・春休み、夏休みの2回 宇都宮市で実施
- ・中学校の学校祭と重ならない期日
- ・開催時期は、秋の頃がよいと思います。オンラインも可能だと思いますが、近くの会場で面接説明が開けるとよいと思います。
- ・コロナの影響もありましたが、次年度は夏休みごろに実施いただけるとありがたいです。
- ・中学3年生のみではなく、早い段階からの時間をかけた開催が必要かと思われます。
- ・同会場にて冬季休業中にも実施してほしい。子どもたちまたその家庭の様子をみていると、夏の「進学フェア」に参加し、中学校内で実施した高校の先生による説明会の話を聞いたにもかかわらず、願書を書く段階で迷うので。
- ・現在の9月が最適と思う。
- ・よい時期だと思います。
- ・時期、会場につきましては適切だと思います。
- ・開催時期は9月～10月、開催場所は宇都宮市が



妥当と思います。

- ・ 県北での開催・高校進学ガイダンスの動画のチャシ。
- ・ 夏休み中に実施。中1から参加できるようにする。(※学年の制限があるとするならば)
- ・ 8月の夏休み中。また、県北でもお願いしたい。宇都宮まで行くのはほぼないと思います。各地域の外国人コミュニティの集会等で実施してはどうでしょうか。
- ・ 平日、休日どちらでも参加できる日程の設定。県立校の1日体験の参加を検討する6月中下旬に設定
- ・ 夏休み前後、現在の9月頃(夏休み中3者面談という学校も多いので)がよいのかなと個人的に思います。他地区での開催が難しい場合は今回のようにONLINEガイダンスは有効だと思います。
- ・ 9月が適切だと思います。
- ・ 足利在住の外国籍の人にとって「マロニエプラザ」はかなり遠くのイメージとなり、あまり有効に活用できません。
- ・ 9月だと進路に対する意識がまだ十分ではないのでもう少し後でもいいと思いました。

○外国人生徒の進路指導において直面している問題や課題はあるか。また、言語面などで工夫していることがあれば教えて欲しい

- ・ 生徒との会話は出来ても、保護者との意思の疎通が難しい(数年前)
- ・ 言語等進路指導における問題はありませんでした(該当案件なし)
- ・ 三者面談に通訳として日本語指導講師に同席してもらう。今年度はポケットークを購入して、活用した。
- ・ 該当生徒、保護者に「多言語による高校進学ガイダンス」への参加を勧めてもなかなか参加してもらえない。保護者よりも本人の方が日本語が堪能なことがあり、本人が通訳することがあるが、正しく伝わっているかどうか分からない。
- ・ 本校では日本語指導の先生に来て頂き教わっている生徒が一名います。進路関係の難しい細かい話も通訳していただき大変ありがたかったです。
- ・ 三者面談等で通訳に同席してもらう

・ 入試関係の書類作成。高校説明会で通訳の必要性。

- ・ 保護者の国とは進学等のシステムが異なるので、理解に時間がかかる。また、書類の記入やインターネット出願等の説明が伝わりにくい
- ・ 面談の時は通訳ができる人(家族)に同席してもらう
- ・ 言葉が伝わらなかったため、筆談で面談を行ったことがある
- ・ 日本語を話せない保護者との三者懇談に難しさを感じる担任がいた。
- ・ 高校入試に関する説明の時に国際交流協会に通訳を依頼しました。
- ・ 本人と保護者の方に進路に関する情報を説明し理解していただく難しさ。簡単に通訳をお願いできる仕組みがあるとありがたい。
- ・ 言葉の壁があり、積極的な活動が難しいと感じました。
- ・ 三者面談等で通訳が同席。ポケットークの使用
- ・ 三者面談に通訳が同席
- ・ 三者面談などの通訳に同席してもらった
- ・ 三者面談では通訳に同席してもらいました。十分コミュニケーションはとれるので、課題は特にありません。
- ・ 前任教では通訳の方に同席していただきました。
- ・ 面談においては市教委より通訳を派遣していただいて実地した。
- ・ 文書の理解が厳しいが、生徒が通訳している。
- ・ 1年生に中国人、ネパール人の生徒がそれぞれ1人おり、ポケットークを活用したり、地域の中国語のできるボランティアの方に通訳などと翻訳して頂いている。
- ・ 保護者の日本教育に対する理解が国によって差がある。
- ・ 三者面談での通訳の同席。HANDSプロジェクトやコモングローバルセンターのサイトや資料の紹介。
- ・ 進学ガイダンスについて案内した。必要に応じて通訳の派遣を依頼した
- ・ 三者面談等で必要ならば通訳等に同席してもらう。プリント等を訳してもらう
- ・ 今年度の外国人生徒の使用する言語、シンハラ語の通訳者がいなかったため、父兄を通して進路

指導を行った。市教委から借用したポケトークも併用した。

- ・英語科の職員に面談等で同席してもらう。本人・親以外に日本語がわかる方に同席してもらう
- ・市教委グローバル課と連携し、進路指導が必要な時には、通訳の方を依頼し対応しています。
- ・三者面談などで通訳に同席してもらっている。
- ・三者面談で保護者の知人、生徒の兄姉に通訳してもらう場合もあるが、必ずしも通訳がつくわけではないので、意思疎通が難しい面もある。
- ・専門的な語句について意味が通じないことがある。ポケトークを利用しているが、難しい。
- ・三者面談などで通訳に同席してもらう。母親が外国人の場合、父親も一緒に同席してもらう。
- ・ボランティアの通訳の方を通して情報提供を行った。
- ・外国人生徒が新3年生に編入し、現在日本語は全く話せない。本人、家族共に進学を希望している。
- ・生徒自身の日本語習得のための方策。(定期テスト等でのルビ、進路関係の書類等の説明など)
- ・日本語が理解できていないと、非常に苦しい。さくら市採用の非常勤講師が、面談で同席してくれている。
- ・令和2年度においては、外国人生徒が日本語を十分に理解していたため課題はありませんでした。
- ・外国人生徒が在籍しているとすれば、高校入試に関する情報を母語で提供すること。
- ・外国人保護者への説明方法(外国語、要項等の多言語未対応) 個別支援員不足
- ・三者懇談の通訳・高校入試の資料を提供  
言語翻訳機(ポケトーク)の活用を試みたことがあった。(本年度卒業生ではない)
- ・教育に対する価値観の違いにより、女子に対する就学の必要性を親がもっていない。保護者の面談には通訳が必要であった。
- ・進路情報を正しく伝えること。(宇都宮大学の)学生ボランティアによる支援は大変効果的であった。
- ・母語のできる日本語支援員の通訳など
- ・出願の手続きの複雑さ。三者面談に通訳してもらう。情報を母語で提供する。

・生徒が通訳をしているため、内容が正しく伝わっているのか把握できない

- ・保護者への説明の際、場合によっては、市教委に相談し、通訳できる先生と一緒に入ってもらう。本校に在籍する外国人生徒は、言語面で困る場面はないので、通常の生徒と同じように生活ができている。
- ・現在、通訳を要する家庭はありません。進路やコロナ対策などは多言語用を配布しています。進路その他で、どうしても必要な時は市教委経由で日本語教室担当の先生の支援をお願いすることもあります。
- ・学校作成テスト等にルビを振る
- ・かつて、通訳できる方に同席していただいたことはあります。
- ・同時通訳機では、詳細については徹底できないので、通訳の方に同席していただけると助かります。
- ・市の外国人指導の先生にお世話になっており、今のところ問題はありません。
- ・今最も効果があるのは「ポケトーク」(校内に4台)ですがいまだ不足です。別に市の日本語指導担当職員の訪問指導と、相談室での取り出し個別指導を連携させる工夫を行っています。(民間の語学教室とのタイアップも行っています)
- ・本校に在籍する外国人生徒は本人たちの日本語力に特に問題ない。保護者も日頃は問題ないが、必要な時は通訳に同席してもらうことがあった。
- ・私立高校への進学は決定したが、多額の入学金等の準備に苦労している様子であった。

○外国人生徒の進路指導に当たり、日頃感じていること、困っていること、望ましい解決策に対する意見を教えて欲しい

- ・経済的な内容の話や、就職か進学かなどという話をする時はできれば通訳の方が同席していただけると助かると思います。
- ・本年度より進路指導主事として関わっておりますが、母国語が日本語でない生徒が来年度高校を受験します。初めてのことで進路ガイダンスをはじめ、情報提供等を丁寧に行いたいと思います。

- ・最後まで本人の希望と保護者の考えが異なり、受験勉強に集中できないまま、入試を迎えてしまうことも多い。早い段階からの話し合いが必要だが言葉の問題や保護者の仕事が忙しいなどの調整が難しいため、継続的な話し合いができない。
- ・身近な世話役の方や通訳の方に、高校説明会や三者懇談に参加していただけるよう、働きかけていくことが必要だと思う。出願手続について十分理解しないまま。世話役の方が手続をすることはトラブルになりやすい。
- ・GIGA スクール事業で1人1台のパソコンが導入されます。宇都宮市は Google chrome を利用するので、言語や文書の翻訳がスムーズになります。また、このことから、HP などを多言語化することが必要だと思います。
- ・日本語指導を行っていた生徒について ある程度日本語を話すことができる生徒だったのでコミュニケーションはとれたが、家庭と連絡がとりづらく、苦勞した。つくばインターナショナルスクールは、これからまだ、面接や、クラス分けのテストがあるようで正式に入学は決定していない
- ・私立校や県立高の学科などに関する説明や入試の手続時にサポートしてくれる人がいると本人・家族・担任も安心感があると思います。
- ・保護者が日本語を読み書きできず、進路関係の通知や面談で十分伝えられないことが多いので、リーフレットや HP 等で、保護者、学校対象に通知文の翻訳等のサービスをどこで受けられるか紹介してほしい。
- ・今後、外国人生徒が入ってきた時に、どのような場所に相談、連携をしていったらよいのか情報が欲しい。
- ・本人の学力と進路の関係
- ・文化の違いにより、指導（生徒指導等）が理解してもらえない時がかつてあった。
- ・言葉の問題は大きい。これから日本で進学するとなると、本人が乗り越えなければならない壁になると思う。このことは、社会全体でも解決しなければいけないことだと感じてはいるが、具体的な解決策は浮かびません。
- ・外国人生徒の日本語の能力に応じて配慮していけば生徒の夢がつながると思います。
- ・正確な説明が必要な場面では通訳を依頼するよ

うにしています。

- ・今年度は、日光市教育委員会が日本語を専門に指導する教員を雇用し、週4日程度、約半年間本校に配置するという対応をしてくれたおかげで、日本語の学習が進みました。このような対応があたり前のようにあることを願います。
- ・言葉の壁
- ・やはり言葉の壁。日本の上級学校の進路選択肢の理解が難しい。身近に言葉が通じる、相談にのれる人材が少ない。
- ・県内・県外を含めた多岐にわたる進学先の情報収集と本人・保護者との意向確認
- ・通訳をしてもらってもなかなか本人、保護者に伝わらない
- ・受験のシステムについて十分に理解できているかどうか疑問に感じることもある。
- ・受検や入学に関する書類が、日本語のみだと内容が正しく理解できない保護者もいることであろう。
- ・現状は、保護者（片方）に外国の人がいる。意思の疎通で困ることがある。
- ・保護者の中には、話の内容を十分に理解できない方がいる。言葉を置きかえて丁寧に説明している。
- ・マロニエプラザの進学フェアはありがたい 文書（学校から配布するもの）を母語で提供できたら保護者との連携がより深まる
- ・進路指導等を含め、日頃コミュニケーションが十分にとれないことがあるので、常時指導できる教員の配置を希望したい。
- ・学校の日程や保護者の仕事の都合により、面談の時間が遅くなったり、急なキャンセルがあったりするため、市教委派遣の通訳で対応できない。多言語化により対応できる通訳がいない。日本語力を除外した生徒の能力に合った高校選びが難しい。
- ・進学に関して保護者の理解している情報が少ない
- ・本人にも保護者にも日本の入試のしくみが伝わりにくいこと。
- ・日本語の語学力をある程度身に付けてから通学できるとよい。学力についても同様。期限に関係なく、近隣に日本語や各教科の基礎が学べる環境



があるとよい。

- ・言語面での苦慮
- ・様々な受験方法、金銭面での問題、母国との行き来による進路変更、卒業、就学証明等の手続きなどが苦勞することもあります。
- ・通常学級の指導では、学校制度についての理解や進学先の情報について十分ではないように思われます。一人一人時間をかけてじっくり話したり、外国人生徒の卒業式等に話しを聞く（これは日本人でも大切だと思いますが）機会を設けるなど、工夫が必要です。
- ・栃木市においては、外国人保護者が日本語を理解できない場合、進路相談等を行うにあたっては、市教委を通して母国語の通訳を派遣していただけますので、そのような場合は大変助かっています。
- ・近くにいる知り合いの方または親戚等がいろいろと対応してくれているようでありがたい。ただ生活習慣の差があるので難しいところがある。
- ・両親（または片親）が外国人の場合は特に、家庭内で日本語をあまりしゃべらない。よって日本に来て長い年月（9年程）たっているにもかかわらず、日本語への理解が不十分である。試験の問題文が読めない、理解できないため解答まで到達しないのである。今後、日本語の理解が不十分な生徒への配慮受検の充実を希望します。
- ・日本語の理解がほとんどできない場合、通訳ができる人材が必要となるが、なかなか都合よく手配できない。
- ・外国人生徒対応専門の職員を配置（毎日が不可なら週1日でも…）してほしい。
- ・現在のところ、ありませんが、今後外国人生徒が在籍した場合は、通訳スタッフの派遣を希望します。
- ・日本語が話せない生徒を対象とした専門の学校があってもいいのでは。
- ・言葉の問題が大きいかと思います。
- ・県HPなどで外国語による説明文、入試要項音声ガイダンスがあるとチェックできると思います。
- ・日本生まれで、ふだん日本語に不自由ないのになかなか学力が上がらないこと。
- ・価値観を尊重したいと考えているが、社会的に受け入れられないことは拒否しなくてははいけない

というダブルスタンダードによるジレンマ。

- ・多言語 WEB 連絡帳は大変すばらしい。この中に進路に関するものがあると助かります。
- ・言語の壁。通訳の配置、翻訳ツールの提供。
- ・生徒には日本語の説明で十分だが、保護者には特別にいてねいな説明を行っています。
- ・学年の途中で編入学があった場合で進学の希望がある場合の対応
- ・日本語教育、進路に関する情報の提供
- ・外国人生徒は、負担の少ない公立高合格を目指して努力を重ねている。もう少しのところで不合格になり進学をあきらめる生徒も少なくない。外国人児童生徒教育推進協議会より、入試問題文にルビをふる等の要望を出していただいているので、ありがたい。
- ・願書の書き方や印かんについては、通称名か戸籍名か迷うことが多々あった。
- ・保護者によっては、日本語がうまく通じない方がおり、通訳等が依頼できるシステムがあるとよい。
- ・現在はありますが、高校のシステムや進路事務など国によって異なりますので、多言語での資料・チラシやこうしたガイダンスの開催はたいへんありがたいです。進路だけではなく、HPの単語帳など様々な教材、情報は外国籍の児童生徒の多い学校ではとても貴重です。感謝いたします。（以前、日本語教室のある学校にもおりましたので…）
- ・保護者と直接やり取りすることが難しい場合があるため、本人を介して意思疎通を図る必要があること。
- ・正確に伝わらないことがあり、不安だったことがありました（高校の情報や入学に関する金額等）
- ・生徒以上に保護者の理解を得るのに時間がかかります。市教委から可能な限り通訳できる方を都合つけていただいて、何とか指導にあたれている状況です。
- ・市の外国人指導の先生に世話になっているため今のところ問題ない。今のところ中3までに問題は解決しており、助かっております。
- ・困っていること：個別の対応が、転入時期によって各々必要になるため、年度始めの計画では対応できなくなるケースが出ている。望ましい解決策：

拠点をつくってある程度の所まで指導できる事が望ましいと思うがなかなかうまく行かない。通訳・文書の翻訳をタイムリーに十分に行える支援がほしい。足利から宇大まではなかなか行けず多言語による高校ガイダンスに参加してもらうことは難しい。足利独自でこのような取り組みができるとありがたい。

・奨学金を借りられるように、支援をしてほしい。

なお、「卒業後に外国人生徒が受検（験）を希望して相談に来ることはあるのか。ある場合は誰にどのように相談に来るのか具体的な事例を教えて欲しい」との質問には、3件だけ受験等に関する相談があったと回答があった。

## V とちぎ自主夜間中学の開校・開講

筆者は、代表者として、「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」を発足させた(2021年3月7日)。そして、本会は、2021年8月8日にとちぎ自主夜間中学の開校式・入学式を行い、9月から活動を開始することを決めた。月に4～5回、自主夜間中学を開講する計画である。この経緯について、簡潔に記しておきたい。

夜間中学は公立夜間中学と自主夜間中学に大別される。自治体が設置主体となっている公立夜間中学は2021年4月現在全国で36校ある。2016年12月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（義務教育機会確保法）が公布されて以降、文部科学省はすべての都道府県と政令指定都市に少なくとも1校の公立夜間中学が必要との考え方を示し、全国の自治体に設置を呼び掛けており、公立夜間中学は2020年4月には茨城県常総市、2021年4月には徳島県と高知県に設置されるなど、近年拡充の動きがあるが、未だに12都府県に36校しかない。義務教育未修了者、形式卒業生（中学校で不登校になり学べなかったが卒業証書を付与されて卒業した者）、学齢を超えた外国人などが学んでいる。

一般市民のボランティア団体と言える自主夜間中学および関係する諸グループは全国で約40存在すると思われる。札幌遠友塾、川口自主夜間、松戸自主夜間のように約30年続いてきたものもあれば、しずおか自主夜間教室、いしかわ自主夜

間中学のように、この1年で設立された団体もある。

夜間中学は「学び直し場」として貴重な役割を果たしている。定時制通信制課程の高等学校やフリースクール等と共通する側面である。一方、夜間中学は年齢・国籍・バックグラウンドが多様な人々が一緒に学ぶ場となっており、多文化共生の学びおよび交流の場としての性格を強く有している。

栃木県には公立夜間中学は設置されておらず、年齢や国籍が多様な人が一緒に学ぶことが出来る場もない。約5年前に関西の公立夜間中学の授業見学と学習者からの聞き取りを軸とするフィールドワークを学生たちと一緒に実施して以来、夜間中学の社会的意義と課題について考えてきた。

「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」を発足させ、自主夜間中学の開校に踏み切った直接のきっかけは、2020年12月に宇都宮市内で「公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える集い」を開催したことであった。この集いでは、様々な地域の夜間中学関係者と筆者が代表を務める研究グループの面々が集まり、夜間中学の社会的意義と課題について話し合った。

一時は、国際学部附属多文化公共圏センターが設置主体となる自主夜間中学も構想したが、地域により開かれた学びの場にすること、多様な力を結集することなどを重視し、市民ベースのボランティア団体としての活動として始めることとした。なお、センターは自主夜間中学の活動に組織的に協力していくことを確認している。今後、様々な形の協力を模索していきたい。

2020年12月の集いの様子は記録集として刊行した。また、センター年報（2021年3月）に夜間中学に関する2つの論考を寄せた。公立・自主夜間中学の社会的意義や課題、とちぎに自主夜間中学を開校することを決めたことなどに関する詳細はこれらのものを参照いただきたい。

（注1）「栃木県立高等学校入学者選抜実施細則」（14頁）には、入学試験資格について、以下のように記載されている。

1の(2)（1頁）に定める資格を有する者で、かつ、次のア、イに該当する者



ア 外国における在住期間が原則として2年以上で、帰国後2年以内の者とする。ただし、外国における在住期間が長期にわたる者については帰国後3年以内、外国人等については入国後3年以内の場合は、その事情によっては、高等学校長の判断によって志願資格を認定することができる。

イ 保護者が県内に居住しているか、当該年の入学式の行われる日の前日までに居住予定であること。ただし、保護者が引続き海外に居住する場合は、県内に保護者に代わる身元引受人がいる場合に限る。

(注2)「多言語による高校進学ガイダンス」(国際学部附属多文化公共圏センター主催)は、2020年度9月に2回(宇都宮市会場、オンライン開催)実施した。2021年度は9月に3回(宇都宮市・佐野市会場、オンライン開催)開催を予定している。

## 参考文献

田巻松雄(研究代表者)『公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える』宇都宮大学、2020年8月。

田巻松雄「地域により開かれたセンターへー多様な学びの場を地域で支えるために」『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第13号、2020年3月、101-106頁。

田巻松雄「コロナ禍のこんな時こそ、夜間中学の必要性はいよいよ増している」『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第13号、2020年3月、44-59頁。

田巻松雄(研究代表者)『宇都宮大学 HANDS10 年史 外国人児童生徒教育支援の実践』宇都宮大学、2020年8月

田巻松雄『ある外国人の日本での20年—外国人児童生徒から「不法滞在者」へ—』下野新聞社、2019年。

田巻松雄「高校入試における特別定員枠の現状と課題」平成30年度科学研究費補助金基盤研究(A)「将来の『下層』か『グローバル人材』か—外国人児童生徒の進路保障実現を目指して—」報告書、2019年3月、104-111頁。

文部科学省『『日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査(平成30年度)』の結果について【概要】』

本稿は、2021年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究A「外国人生徒の学びの場に関する研究—特別定員枠校と定時制通信制課程の全国調査」(課題番号19H00604、研究代表者田巻松雄)の研究成果の一部である。

調査結果のデータ整理においては、宇都宮大学大学院地域創成科学研究科多文化共生学プログラム1年の鈴木アリサさんに協力いただいた。記して感謝申し上げたい。

表 1 進路結果

進路結果		人数 (人)	割合 (%)
進学	公立全日制	91	53.8%
	公立定時制	13	7.7%
	公立通信制	3	1.8%
	公立フレックス制	4	2.4%
	私立全日制	33	19.5%
	私立通信制	3	1.8%
	国立	1	0.6%
	特別支援学校	3	1.8%
	専修学校	6	3.6%
	専門学校	1	0.6%
	外国人学校	1	0.6%
進路結果		人数 (人)	割合 (%)
帰国		1	0.6%
未定		9	5.3%
無回答		0	0.0%
合計		169	100.0%

表 2 日本語指導「有」「無」別進路結果

		結果															
		公立 全日制	公立 定時制	公立 通信制	公立 フレックス 制	私立 全日制	私立通 信制	国立	特別支 援学校	専修学 校	専門学 校	外国人 学校	帰国	未定	無回答	合計	進学者数 進学率
日本語指導	有	11 28.9%	8 21.1%	1 2.6%	1 2.6%	7 18.4%	1 2.6%	—	—	2 5.3%	—	1 2.6%	1 2.6%	5 13.2%	—	38 22.5%	32 84.2%
	無	74 60.7%	4 3.3%	2 1.6%	3 2.5%	25 20.5%	2 1.6%	1 0.8%	2 1.6%	4 3.3%	1 0.8%	—	—	4 3.3%	—	122 72.2%	118 96.7%
	無回答	6 66.7%	1 11.1%	—	—	1 11.1%	—	—	1 11.1%	—	—	—	—	—	—	9 5.3%	9 100.0%
	合計	91 53.8%	13 7.7%	3 1.8%	4 2.4%	33 19.5%	3 1.8%	1 0.6%	3 1.8%	6 3.6%	1 0.6%	1 0.6%	1 0.6%	9 5.3%	—	169	159 94.1%

表 3 国籍別進路結果

		結果															
		公立 全日制	公立 定時制	公立 通信制	公立 フレックス 制	私立 全日制	私立通 信制	国立	特別支 援学校	専修学 校	専門学 校	外国人 学校	帰国	未定	無回答	合計	進学者数 進学率
国籍	中国	7 46.7%	—	—	—	6 40.0%	1 6.7%	—	—	1 6.7%	—	—	—	—	—	15 8.9%	15 100.0%
	日本	—	2 66.7%	—	—	1 33.3%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 1.8%	3 100.0%
	ペルー	23 53.5%	1 2.3%	1 2.3%	1 2.3%	11 25.6%	1 2.3%	—	1 2.3%	3 7.0%	—	—	—	1 2.3%	—	43 25.4%	42 97.7%
	ベトナム	4 50.0%	1 12.5%	—	—	2 25.0%	—	—	1 12.5%	—	—	—	—	—	—	8 4.7%	8 100.0%
	パキスタン	2 16.7%	2 16.7%	—	2 16.7%	2 16.7%	—	—	—	—	—	1 8.3%	—	3 25.0%	—	12 7.1%	9 75.0%
	ブラジル	21 67.7%	1 3.2%	—	—	6 19.4%	1 3.2%	—	—	1 3.2%	1 3.2%	—	—	—	—	31 18.3%	31 100.0%
	ボリビア	3 75.0%	—	—	—	1 25.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4 2.4%	4 100.0%
	タイ	2 40.0%	—	—	—	2 40.0%	—	—	—	—	—	—	1 20.0%	—	—	5 3.0%	4 80.0%
	フィリピン	21 65.6%	4 12.5%	1 3.1%	1 3.1%	2 6.3%	—	1 3.1%	1 3.1%	—	—	—	—	1 3.1%	—	32 18.9%	31 96.9%
	バングラデシュ	2 100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 1.2%	2 100.0%
	コロンビア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 100.0%	—	1 0.6%	0 0.0%
	ネパール	2 66.7%	1 33.3%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 1.8%	3 100.0%
	スリランカ	—	—	—	—	—	—	—	—	1 50.0%	—	—	—	1 50.0%	—	2 1.2%	1 50.0%
	ホンジュラス	—	—	1 100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 0.6%	1 100.0%
	韓国	2 100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 1.2%	2 100.0%
	フィジー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 100.0%	—	1 0.6%	0 0.0%
	アフガニスタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 100.0%	—	1 0.6%	0 0.0%
不明	2 100.0%	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3 1.8%	3 100.0%	
合計		91 53.8%	13 7.7%	3 1.8%	4 2.4%	33 19.5%	3 1.8%	1 0.6%	3 1.8%	6 3.6%	1 0.6%	1 0.6%	1 0.6%	9 5.3%	—	169	159 94.1%

表 4 特別措置利用状況

受検実施状況	日本語指導	結果	
特別 A 選抜	あり	進学	公立全日制
特別 A 選抜	あり	不合格	未定
特別 A 選抜	なし	進学	公立全日制
特別 A 選抜	なし	進学	公立全日制
特別 B 措置	あり	進学	公立定時制
受検実施状況	日本語指導	結果	
特別 B 措置	あり	進学	公立定時制
特別 B 措置	不明	進学	公立定時制
A 選抜と B 措置両方	あり	進学	公立定時制
A 選抜と B 措置両方	あり	不合格	公立定時制 (一般受検で進学)

# **Situation of Foreign Students after Junior High School Graduation in Tochigi Prefecture: A Report of the 11th Survey Result**

TAMAKI Matsuo

## **Abstract**

This document presents the results of the 11th survey on the situation of foreign students after junior-high-school graduation, conducted in Tochigi prefecture. Data of 169 foreign junior-high graduates was collected. Regarding the entire sample, the main results are: the students' high-school continuation rate is 87.6%, and most of the students made their decision among these three high-school choices, 53.8% entered full-time public schools, 7.7% to part-time public schools, and 19.5% went on to full-time private schools. The high-school continuation rate of students who received Japanese language coaching is 84.2%, from which 28.9% to full-time public schools, 21.1% went to part-time public schools, and 18.4% to full-time private schools. Pertaining to students who were able to take advantage of the Special Entrance Examination System, we received data of 9 students that is less than 6% of the entire surveyed population. Out of 9, the results are as follows: 3 went to full-time public schools, 4 went to part-time public schools that is to say, 7 students were able to pass the Special Entrance Examination, from whom 4 received Japanese-language tutoring.

(2021 年 6 月 1 日受理)